

4) 公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者対象 公認中級パラスポーツ指導員養成講習会 (29.5時間以上)

領域	講習科目	内容	時間
医療	障がい各論	障がいに留意した指導ができるよう、各種障がいに関する医学的・心理的な特性を学ぶ。 <脊髄損傷・切断・関節障がいその他機能障がい(2.5h) 脳原性麻痺 (CP,CVA) (1.5h)、視覚障がい (1.5h) 内部障がい (1.5h)、聴覚障がい (1.5h) 知的障がい (発達障がい含む) (1.5h)、精神障がい (1.5h)>	11.5 以上
パラスポーツ	パラスポーツ概論	我が国のパラスポーツの歩み、日本パラスポーツ協会の取り組みを通じて、パラスポーツの意義、その現状について学ぶ。また一般スポーツとの施策やスポーツ環境の違いを理解するとともに、パラスポーツの課題や現状を学ぶ。	2
	全国障害者スポーツ大会の概要	大会がスポーツ未経験者や初心者のスポーツ参加の大きな動機づけになっていることを理解するとともに、一般競技とは異なる点や開催目的、参加資格、競技規則の成り立ち、実施競技、障害区分等について学ぶ。	2
	補装具の理解	補装具の種類や特徴を学ぶとともに、指導者として最小限知っておくべき事柄やスポーツ指導現場での留意点を理解する。(義肢、装具、車いす、杖など)	1.5
	地域でのパラスポーツの取り組み	パラスポーツの実施例、課題等の紹介を通じ、実際に地域で行われている活動を学ぶ。その内容をふまえ、障がい者がスポーツに参加することを想定した指導案の作成、または地域の中で障がい者が一緒に楽しめる教室やイベントの企画立案など、プログラムを作成する。	3
	障がい者にとってのスポーツの価値	障がい者の実体験に基づく話を聞き、障がい者にとってのスポーツの価値について理解を深める。	1.5
実技・実習	車いすとスポーツ	車いすを使用したスポーツの体験を通してその種目の楽しさやルールを学ぶとともに、準備運動、起こりやすいケガとその予防法、車いす介助法などについても学ぶ。	2
	視覚障がい者とスポーツ	視覚障がい者が行うスポーツの体験をとおして種目の楽しさやルールを学ぶとともに、介助法(手引)やコーチング(方向指示・言葉かけを含む指導)の仕方を含め、安全にスポーツを実施するための留意事項について学ぶ。	2
	脳原性麻痺者とスポーツ	脳原性麻痺者が行うスポーツの体験を通して種目の楽しさやルールを学ぶ。また対象者の麻痺の状況を留意し、安全にスポーツを実施するための留意事項について学ぶ。	2
	障がい特性に応じた水泳への導入法	障がい者がプールに入る際の更衣室内の配慮、入退水から水中でのサポート方法など、指導の際の安全確保について障害別症例により留意点を学ぶ。また、片側麻痺や視覚障がいの疑似体験による水中歩行や泳ぎ方についても実際に行い、障がい者にとっての水の効用や障がい特性に応じた浮き身や立ち方の指導法などの実践力を身につける。	2
レポート	活動実績報告	パラスポーツに関わるきっかけ作りとして、講習会終了後に個別に地域でのパラスポーツに関わる活動をし、その内容をレポートにまとめ提出する。	講習後 作成 提出
備考	講習会の中で、グループワークやアクティブラーニングを通じてコミュニケーション能力の向上をめざす。		